

## B-2 繊維製品の清浄性回復と洗浄条件(オズ報)

金城学院大短大 山田寿子

目的 前報に引きつづき、よごれに皮脂成分を選び、洗浄条件をかえて、清浄性回復の傾向を検討した。

方法 トリパルミチン、トリオレイン、スクワレンの汚染布を、温度 $20^{\circ}\text{C}$ 、 $40^{\circ}\text{C}$ 、濃度 $0\%$ 、 $0.1\%$ 、 $0.2\%$ 、ゴム球数5ヶ、10ヶ、洗剤ABS、SDS、Launder-O-Meterで洗浄し、赤外分光光度法測定により洗浄性を比較した。

結果 よごれの種類によって、清浄性回復の差違が認められた。即ちオレイン、スクワレンが除去されにくく、特にオレインは落ちにくかった。  
温度、濃度、機械力、ビルゲル添加など、洗浄条件間に有意差が認められた。